

平成 26 年第 5 回こまきみらい塾運営委員会会議録

- 1 日 時：平成 27 年 2 月 19 日（木）午前 10 時 00 分～正午
- 2 場 所：小牧市まなび創造館 多目的室 1
- 3 [出席者]
委 員：代田義勝、若山邦子、副島孝、早矢仕彩子、神戸由美、
田中千代巳、土方裕美、丸山真由美、宮崎康弘

事務局：羽飼館長、坪井係長、他職員 4 名

[欠席者]

蛭原雅代

[傍観者]

なし

4 議 題

- (1) 平成 26 年度実績について
- (2) 平成 26 年度修了式について
- (3) 平成 27 年度学習計画案について
- (4) その他

5 概 要

[事務局]

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今回平成 26 年度最後の運営委員会となります。1 年間大きな問題もなく進めることができました。皆様のご指導・ご協力の賜物と思っております。本日の議題ですが、平成 26 年度の実績について、修了式について、平成 27 年度学習計画案とございます。担当より説明させていただきます。よろしく申し上げます。

[代田委員長]

私も 3 期を担当させていただいていますが、受講者の皆さんと議論をしていく中で、北欧・EU 諸国の方が男女共同参画の進みが早いものですから、日本はなかなか進まないという印象を受けます。とはいっても、一挙には難しいので、地道な活動を長く続けていく必要があるのかと思います。今日は 3 つほど議題がございます。皆さんご意見よろしく申し上げます。

[代田委員長]

それでは、議題（1）平成 26 年度実績について、事務局からお願いします。

[事務局]

—資料に基づき申込状況を報告—

[宮崎委員]

特別講座を中止したとのことですが、聴講生 3 名・託児 3 名とありますが、他の講座を受けてみえる方ですか。

[事務局]

いいえ、特別講座のみ申し込まれた方々です。

[宮崎委員]

もったいない気がしますね。せっかく、みらい塾を知っていただくきっかけとなりそうでしたが。

塾生の人数が年々減少していますが、その原因は講座の内容なのか、マンネリ化してきているのか等、事務局としては何かつかんでみえますか。このままですと減る一方のような気がしますので。

[事務局]

考えられる大きな原因としましては、開講当時からの人が高齢化し、そのまま進めている状態で、その下の年代の方が入ってきていないことが考えられると思います。これはここだけの問題ではなく、日本全体がそのように動いているかと思えます。ですが、それを改善していかなくてはいけないとは思っています。

[丸山委員]

昨年も今年も若い方に入っただけのように色々と議論したと思うのですが、なかなか数字が上がらないと、思い切った取組みができなかったと思うので、少し長い目で見えていただいて、今のみらい塾のイメージが高齢者層になってしまっているのを、若い人向けの講座があるということを浸透する期間が必要かと思えます。

[代田委員長]

今来ていただいている人たちへのサービスを充実しつつ、新たな若い世代の取り込みを進めていきたいですね。

[丸山委員]

中止になった講座も、完全に若い方向けに絞った講座でしたが、集まらないとなると、大胆な動きをする勇気をそがれてしまうところもありますね。来年度インターネットの講座を担当させていただくのですが、事務局とも相談して、あまり若い人向けにしてしまうと今の塾生の方々に受け入れられるか分からないので、どちらもうまく取り入れられるようにと話をしていたのですが、若い人にとっても、みらい塾のイメージが変わるような流れができるとまた違うのかなと思います。1~2年では難しく、3年くらい経って初めて認知されるかなと思っています。

[代田委員長]

グラフや表の男女別、新規塾生の数を見ると、まだまだ取り込めていないと感じますね。

[宮崎委員]

特別講座①は聴講生が多く、託児も9人いて、PRとしてチラシ等は見ているような気がします。だから広報の仕方についてというよりも内容の重要性だと思います。自分が興味のあるものであれば申込みをされているので、事務局のPR方法は間違っていないのかなと思います。

[丸山委員]

インフルエンザがすごく流行った時期でもあったので、小さい子どものいるお母さんは外に出ることがためらわれた時期だったのかなと思います。出やすい時期と出づらい時期があるので。名古屋の「ママの学び舎」(学び舎mom)というところで今度あるのが、「入園・入学前のママの心得講座」や「就学前のひらがなの教え方~怒らないママになるために~」といった講座がありまして、申込み当日に殺到してすぐ満員になってしまいます。名古屋は人口が多いのでいっぱいになると思いますが、時期も大切かなと思います。

[若山副委員長]

託児を受ける側も今の時期は急なお休みが多い時期で、今まなびでもお茶の講座をしていますが、毎回何人かは当日お休みされています。みらい塾の3期の時期は必ずキャンセルが入ってくるというのは頭にあります。託児の子が病気にならなくても兄弟が…となるとお母さんは出られないですし、お休みが多い時期ですね。

[丸山委員]

みらい塾のいいところはまなび創造館という確固たるバックアップがあって、ちゃんとしたところで勉強ができるというところだと思うので、そこを活かして若い人が入って来やすいようなことを考えないといけないかと思いますが、難しいですね。

せっかく4階・5階に人の流れができていますので、その人たちに来てもらえるようになるといいですね。

[神戸委員]

聴講生の方は全体的に増えてきているとは思いますが。聴講生の方を塾生にしていく形がいいかもしれないですね。

[田中委員]

私も初め、システムがよく分からなかったです。プログラムを読めば分かるのですが、聴講生の方がしっかり読もうとはなかなか思えないかもしれないですが、みらい塾すごくお得なシステムだと思うので、個別にPRしてはと思うのですが。

[丸山委員]

平成14年に聴講生の申込みに行ったときに窓口の方が塾生の方がお得だと教えてもらいました。その一言があると違ってくると思います。

[事務局]

聴講生の方には1年間で5つ以上受けられるのであれば塾生になっていただいた方がお得だとは案内しています。

[田中委員]

単位制等を見ると、ひいてしまう方もいますが、それほど重荷ではないので、口頭で説明されるとよりいいかと思えます。

[若山副委員長]

託児ですが、保護者の人数は2名で、1人は塾生、1人は聴講生ですが、塾生の方は窓口で得だと聞いて入られたそうです。3期に関しては時事問題のみ受けられています。聴講生の方にも声をかけられるところでは声かけをしています。

[代田委員長]

10年以上前にみらい塾は立ち上がったのですが、そのときは3年間の単位制ということでしっかりと勉強をしていただくという考え方だったのですが、現在の動きを見ると、自分の興味のある講座を受けるという流れになってきているのかもしれませんがね。

[代田委員長]

続いて、議題(2)平成26年度修了式について、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

—修了式でのみらい塾をPRしていただく方の選出依頼—

[代田委員長]

ほとんどの方が経験されていると思います。自由にPRしていただいて結構です。時間としてはどれくらいですか。

[事務局]

3～5分くらいです。

[神戸委員]

今までは修了式に出られなかったのですが、今年は出られますのでやらせていただきます。

[代田委員長]

みらい塾についての視点を田中さんにサポートしていただくという形でお願いします。

[代田委員長]

続いて、議題(3)平成27年度学習計画案について、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

—資料に基づき学習計画案について説明—

[代田委員長]

従来との違いが聴講生について、今まではテーマ学習コースは受講できないとしてありましたが、来年度は受講できるようにして、受講しやすいように全10

回を5回ずつ分割したところですね。プログラムのテーマ学習コースが探しづらいため分かりやすくなるといいですね。文字だけでなく、イラストが入っていて見やすいですね。

[土方委員]

塾生と聴講生の申込みについて、5日ほどずれがありますが、今現在で、塾生用の受付枠と聴講生用の受付枠を分けているのか教えてほしいです。

[事務局]

現在はそのような枠については設けておりません。塾生の方の申込みで定員に達しなかった場合に聴講生の受付をするとさせていただいております。

[土方委員]

塾生の方は時間にゆとりのある方が携わっていると思うのですが、聴講生の方には子どもがいたり、仕事をしていたりとなかなか時間がなくて、聴講生という選択になってしまうのですが、その方たちが受けやすいように枠を設けてもらえると若い新規の方も受講しやすいのではないかと思います。全体的に塾生が減っているので、競争のようなことはないかもしれないですが。

[代田委員長]

従来は積極的に塾生になってほしかったので、そうした枠を設けておりませんでしたが、今後は考えていった方がいいかもしれないですね。

[田中委員]

定員は必ず守らなくてはいけないのですか。座席数が足りないのであれば仕方ありませんが、席があるのであれば2~3人多く受けてもらってもいいのではと思うのですが。

[事務局]

消防法の問題がありますので、定員以上は難しいです。

[代田委員長]

5名分ほど、聴講生用に枠を取っておくというのはいかがでしょうか。

[事務局]

今年度の実績を見ますと、どの講座にも全て聴講生が入っており、塾生だけで

はいっぱいにはなっていないということになります。

〔宮崎委員〕

プログラムに「新規塾生の受付はいたしません。」とありますが。

〔事務局〕

市役所全体で講座の見直しが進んでおり、市でやらなくてはいけないものは市が主導で行うのですが、趣味のような講座については市が主導ではなく、登録している講師が手を挙げて講座を開くという形を検討しています。そういった形で進んでいます。みらい塾については3年間で100単位という基準があるため、すぐに移行することはできないということもありますし、男女共同参画に関してはまなび創造館で進めていかななくてはいけないかと思います。ですから来年度は一度区切りをつけるために新規の塾生を募集しないという動きをとらせていただきたいと思います。

〔代田委員長〕

市全体として色々なところで講座を行っていますが、一度整理をしたいという方向性があるということですね。

〔事務局〕

はい、プロジェクトチームが組織されており、その中で検討されております。

〔代田委員長〕

新規塾生を募集した場合、3年間で100単位取得し、卒業という目標ができるため、途中で打ち切ってしまうと無責任な話になってしまうので、現状まだ先が分からないので新規には募集しないということであり、26年度に入っていた塾生の方については保証するということですね。その後どうしていくかはこれから検討していかななくてはいけなくて、おそらく今のような規模では難しいだろうとは思いますが、重要な機能ですので、皆さんの関心を集めて来てもらえるような形をとらなくてはいけないですね。

〔田中委員〕

聴講生の方で5,000円を超えたらどうするのですか。

〔代田委員長〕

それも考えなくてはいけないですね。1つの考え方としては、聴講生の方で5講

座受けた方は、6 講座目からは無料とすると、払いすぎることはないですね。そのような形にさせていただけるといいですね。

[丸山委員]

同じページの「こまきみらい塾ご案内」が他とは違うフォントになっているので、他と揃えると見やすいかと思います。

[代田委員長]

今後の男女共同参画についてどうするかについて議論していかなくてはいいですね。今のような市民大学の形が取れないとすればどのような形いいのか、予算も限られているのでその中で何ができるか、今までやってきたことは非常に意味のあることだと思うので、継承できる部分は継承していけたらいいと思います。来年度以降の運営委員会もそのあたりについて議論していけたらと思います。

[代田委員長]

議題 (4) その他について、何かございますか。
特にないようですので、事務局にお返しします。

[事務局]

ありがとうございました。次回の運営委員会の日程ですが、第 1 期の募集が 4 月 10 日から始まりますので、4 月下旬～5 月上旬頃では、いかがでしょうか。

—委員による調整— (5 月 14 日)

それでは、次回の運営委員会は 5 月 14 日 (木) 午前 10 時からまなび創造館研修室 2 で行います。

これをもちまして第 5 回小牧市民大学こまきみらい塾運営委員会を終了いたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。